



國家圖書館編

東亞同文書院

中國調查手稿叢刊

133

國家圖書館出版社

六月三日

六月四日



國家出版基金項目  
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院  
中國調查手稿叢刊

133

國家圖書館出版社

# 第一三三冊目錄

昭和五年（一九三〇）調查報告（第二十七期生）

山西省及び天津に於ける紡績業

山西省及天津の紡績業

南滿農民生活狀況

南滿農民生活狀況

吉林省ノ林業

吉林省的林業

中部滿洲ニ於ケル金融市場

中部滿洲の金融市場

北村重英

第五十三卷

..... 一

鵜飼藤一郎

第五十四卷

..... 一三九

左近允武夫

第五十五卷

..... 二六七

浦敏郎

第五十六卷

..... 四〇三

東蒙古都邑調査

東蒙古城市調査

橋本義雄

第五十七卷

…………… 四六三

昭和五年度

山西省及<sub>ビ</sub>天津<sub>ニ</sub>於<sub>ケル</sub>紡績業。

第廿七期生

北村重英





をす、其れ共、時高は吾々をいへば、大にを不能ならしめ、止  
しを得、山南の棉業のみを調査す、中島村本、山南の  
三人は、其の棉業調査に平する、令現に範圍を決定  
し、自令は紡績業調査に當る事とせられり

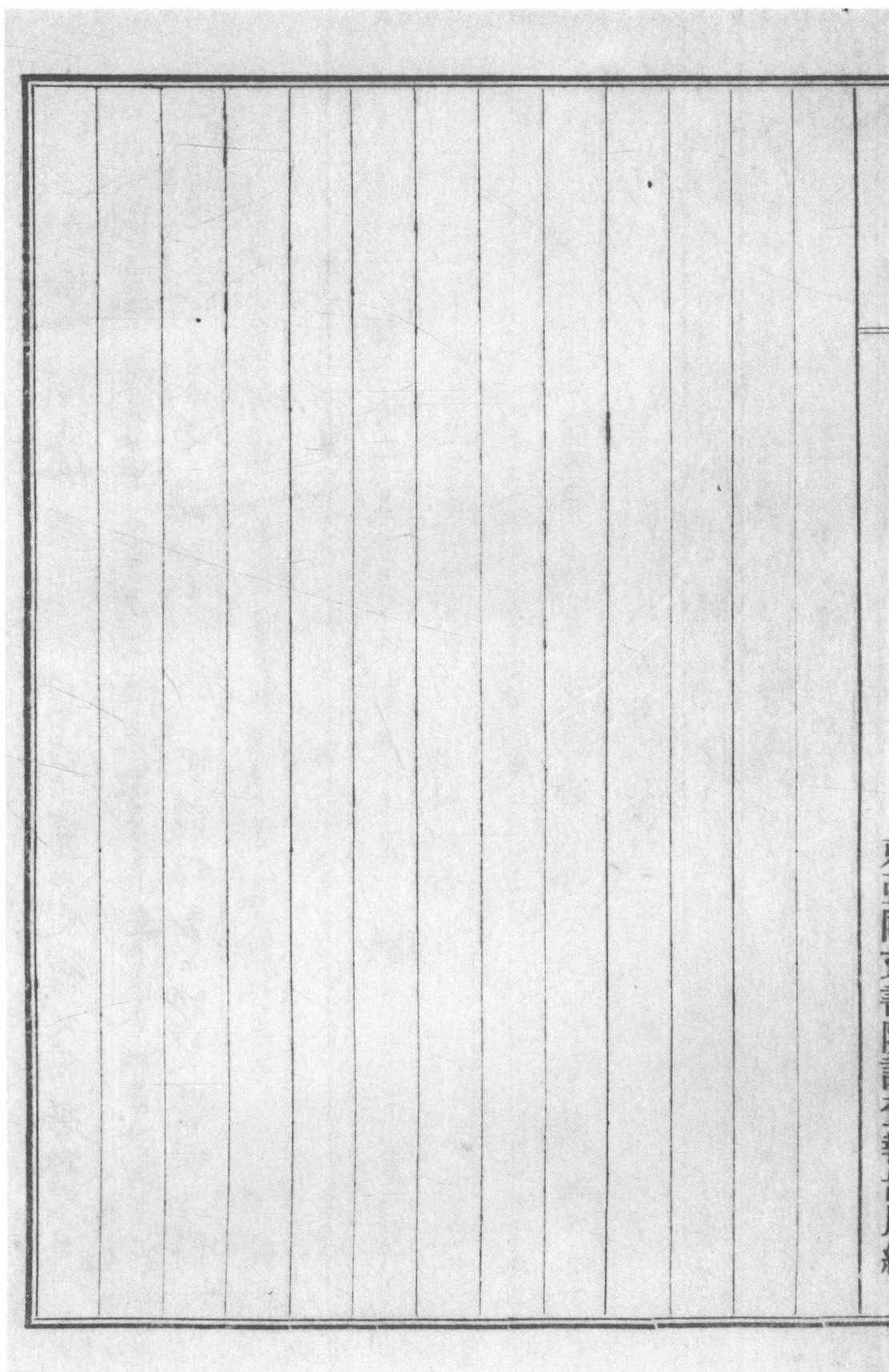
其れ共、綿工業の如き、山南の地の棉花栽培地として  
既、目せられ、より以來、日猶、域を望み、又、其の位置を  
其方、僻處の山奥に在り、近代の新工業に属する紡績業  
の如き、殆んど見るべからず、現狀を考、棉花に對して、其  
業、綿工業に對しては、未だ充分の考察を成さず、  
既、山南の紡績業に平する、調査は甚かに困難な  
ざるを得ず、

猶、其の調査に當り、參考とせる、其の書物を、引算す、其  
の如し

一、何廉氏……「中国工业化之程及办世物始末」

一、一九二九—一九三〇……China Year Book.

一、大岛浪次氏……「天津棉花と物资集積と」



山西省及天津に於ける紡績業

第一章

最近に於ける支那紡績業の大観

一

第二章

山西省に於ける紡績業

第一節 緒論

三三

第二節 山西省に於ける紡績会社

第一款

晉華紡廠

三六

第二款

大益成紡廠

四四

第三款

沁縣紡織工場

五〇

第三節 結論

五二

第三章

天津に於ける紡績工場

第一節 緒論

五五

第二章 天津北門子紡績工場

第一款 沿革

五八

第二款 裕元紡績

五八

第三款 華新

五九

第四款 恒源

六〇

第五款 天津第一商業紡績

六一

第六款 金城紡績

六二

第七款 裕大紡績

六三

第四章 天津出產棉花

第一節 產地及品質

六六

第一款 棉花

六六

第二款 西河棉

六六

第三款 柳河棉

六九

第三款 五節物

七一

第一目 御所筋物植棉

七三

第二目 西筋物植木棉

七四

第三目 山集棉

七五

第四目 各地の五節物

七六

第二節 出廻棉花の内容

八〇

第三節 出廻棉花の数量

八一

第四節 天津附近における棉花消費

八二

第五節 天津における棉花の輸移出入

第一節 棉花の輸移入

第一款 沿革

九一

第二款 品値及用途

九二

第三款 出廻棉花の数量と輸移入の干渉

九三

第二章 天津に於ける棉花の輸移出入

第一款 天津棉花の主要消費先

九九

第二款 日本回輸出

一〇七

第三款 天津に於ける棉花輸出入業者

一〇八

第三章 支那棉花の地位

第一节 原料の消費

一一一

第二节 美米棉花の消費

第三款 美米棉花の消費

一一一

第二款 米口の棉花状況

一一六

第三节 支那棉花の重要性

一二七

(追記)

外口書に記載したる最近支那新棉花の意見

一二一

第五十三卷 山西省及び天津に於ける紡績業

山西省紡績業調査

第一章 最近に於ける支那紡績業大観

綿紡績業に於ける支那の工場製造を採りしものは銅鉄業より進出の採用したるを、然し乍ら今日中門に於ける最大の工場工業たる棉紡績業に於ける工場製造を採りしものは、一八九〇年李鴻章の氏の出資に工場を設立したるを仰るべきであらう。該工場は古万五千錠、織機六百架ありしか、茲許を以て大抵に選り、而して中国政府は兩投資を欲せり、之を民間に轉下せ、茲に名を改め、華遠紡績工場と改稱せられたるに由るなり。

一八九五年 日支条約(下関条約)成立後、外人は中門商埠に於ける設立権を獲得するに及ぶ、其に後、外人経営の怡和、太古、招商局、北人の経営する瑞記等の工場相繼して設立せられ、一八九六年以後、上海、無錫、九江等に於ける支那の工場製造を見たりしものあり。



